



## 2022年6月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月12日

上場会社名 澁谷工業株式会社

上場取引所 東名

コード番号 6340 URL <https://www.shibuya.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 澁谷 英利

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 吉道 義明

TEL 076-262-1201

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年6月期第1四半期の連結業績(2021年7月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第1四半期	18,762	16.5	1,928	491.7	1,955	496.0	1,347	787.8
2021年6月期第1四半期	16,110	24.2	325	68.2	328	69.5	151	78.2

(注) 包括利益 2022年6月期第1四半期 1,396百万円 (367.5%) 2021年6月期第1四半期 298百万円 ( 55.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第1四半期	48.69	
2021年6月期第1四半期	5.48	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年6月期第1四半期	123,083	77,426	62.9	2,797.46
2021年6月期	132,448	76,941	58.1	2,779.98

(参考) 自己資本 2022年6月期第1四半期 77,398百万円 2021年6月期 76,914百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期		30.00		40.00	70.00
2022年6月期					
2022年6月期(予想)		30.00		30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年6月期 期末配当金の内訳 普通配当 30円00銭 記念配当 10円00銭(創業90周年記念配当)

### 3. 2022年6月期の連結業績予想(2021年7月1日～2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,000	3.8	9,200	27.6	9,500	26.7	6,600	25.2	238.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。増減率は適用前の前期および前年同四半期の連結業績を基礎に算定しております。

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) シブヤマシナリー株式会社  
詳細は、【添付資料】8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

詳細は、【添付資料】9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年6月期1Q	28,149,877 株	2021年6月期	28,149,877 株
期末自己株式数	2022年6月期1Q	482,559 株	2021年6月期	482,443 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年6月期1Q	27,667,411 株	2021年6月期1Q	27,667,570 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。よって、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	8
(会計方針の変更) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	10
3. その他 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部で持ち直しが見られたものの、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により経済活動の制限が続き、また半導体などの原材料の供給不足が見られるなど、景気の先行きについては不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は187億62百万円（前年同期比16.5%増）となり、損益面については、特にメカトロシステム事業と農業用設備事業の採算が向上したことから、営業利益は19億28百万円（前年同期比491.7%増）、経常利益は19億55百万円（前年同期比496.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億47百万円（前年同期比787.8%増）となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、従来の方法に比べて、売上高は8億90百万円増加し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2億59百万円増加しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[セグメント別の売上高]

(単位：百万円)

セグメントの名称	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同期比
			%
パッケージングプラント事業	9,329	9,360	+0.3
（酒類用プラント）	( 506 )	( 919 )	( +81.6 )
（食品用プラント）	( 6,065 )	( 4,973 )	( △18.0 )
（薬品・化粧品用プラント）	( 2,300 )	( 3,170 )	( +37.8 )
（その他）	( 456 )	( 297 )	( △34.9 )
メカトロシステム事業	4,824	5,162	+7.0
農業用設備事業	1,955	4,238	+116.7
合 計	16,110	18,762	+16.5

## (パッケージングプラント事業)

パッケージングプラント事業の売上高は、食品用プラントは国内向け飲料用無菌充填ラインの受注減少に伴い減少したものの、酒類用プラントは海外需要の増加を背景として国内大手洋酒メーカーから受注した大型ラインの工事が進捗したこと増加し、また薬品・化粧品用プラントは抗がん剤など薬理活性の高い物質を充填する大型ラインなどの受注に伴い増加したこと増加し、前年同期に比べ、ほぼ横ばいとなりました。

その結果、売上高は93億60百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は15億10百万円（前年同期比42.2%増）となりました。

## (メカトロシステム事業)

メカトロシステム事業の売上高は、半導体製造装置は前期に引き続き中国における半導体自給率の向上を目的とした設備投資の需要拡大を背景として増加し、医療機器は、新型コロナウイルス感染症の影響で人工透析装置の需要落ち込みが続いているものの、大きく減少した前期に比べるとやや回復したこと増加し、前年同期に比べ増加しました。

その結果、売上高は51億62百万円（前年同期比7.0%増）となり、損益面については、半導体製造装置において付加価値の高い機種種の販売割合が増加したこと増加し、営業利益は2億87百万円（前年同期は営業損失2億70百万円）となりました。

## (農業用設備事業)

農業用設備事業の売上高は、柑橘類向け選果選別プラントにおいて複数の大型選果機の工事が進捗したこと増加し、前年同期に比べ大幅に増加しました。

その結果、売上高は42億38百万円（前年同期比116.7%増）となり、損益面については、売上高の増加に伴い操業度が向上したこと増加し、営業利益は6億94百万円（前年同期は営業利益52百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ93億65百万円減少し、1,230億83百万円となりました。有利子負債については、前連結会計年度末に比べ3億15百万円減少し、33億24百万円となりました。純資産については、前連結会計年度末に比べ4億85百万円増加し774億26百万円となり、自己資本比率は62.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年8月6日付で公表した連結業績予想の内容に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,550	30,427
受取手形及び売掛金	30,846	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	28,037
電子記録債権	7,252	6,787
製品	379	497
仕掛品	10,055	8,729
原材料及び貯蔵品	2,834	3,548
その他	2,025	1,944
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	88,938	79,967
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,944	17,714
機械装置及び運搬具(純額)	2,393	2,266
土地	12,775	12,776
建設仮勘定	1,769	1,846
その他(純額)	1,185	1,150
有形固定資産合計	36,069	35,753
無形固定資産		
のれん	78	43
その他	424	472
無形固定資産合計	503	516
投資その他の資産		
投資有価証券	2,093	1,943
退職給付に係る資産	2,946	2,962
繰延税金資産	1,179	1,329
その他	749	640
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	6,937	6,845
固定資産合計	43,510	43,116
資産合計	132,448	123,083

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,887	21,732
電子記録債務	2,755	2,298
短期借入金	1,107	1,003
未払法人税等	2,605	752
未払費用	6,121	3,059
前受金	6,580	—
契約負債	—	4,280
賞与引当金	418	1,564
受注損失引当金	76	46
製品保証引当金	68	73
その他	2,098	1,278
流動負債合計	45,719	36,090
固定負債		
長期借入金	2,533	2,321
退職給付に係る負債	6,607	6,609
役員退職慰労引当金	339	340
繰延税金負債	162	156
その他	144	138
固定負債合計	9,787	9,566
負債合計	55,507	45,656
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,392	11,392
資本剰余金	10,358	10,358
利益剰余金	55,937	56,373
自己株式	△439	△439
株主資本合計	77,248	77,684
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	74	69
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	42	64
退職給付に係る調整累計額	△450	△419
その他の包括利益累計額合計	△333	△285
非支配株主持分	27	28
純資産合計	76,941	77,426
負債純資産合計	132,448	123,083

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
売上高	16,110	18,762
売上原価	13,391	14,512
売上総利益	2,718	4,249
販売費及び一般管理費	2,392	2,321
営業利益	325	1,928
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	0	0
スクラップ売却益	4	9
受取賠償金	22	—
その他	8	25
営業外収益合計	38	34
営業外費用		
支払利息	8	5
租税公課	1	0
為替差損	25	—
その他	1	2
営業外費用合計	36	7
経常利益	328	1,955
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	—	20
特別利益合計	1	21
特別損失		
固定資産処分損	1	0
その他	3	—
特別損失合計	4	0
税金等調整前四半期純利益	325	1,976
法人税、住民税及び事業税	435	847
法人税等調整額	△259	△219
法人税等合計	175	627
四半期純利益	149	1,348
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	151	1,347



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	149	1,348
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	130	△5
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	△24	22
退職給付に係る調整額	42	30
その他の包括利益合計	149	47
四半期包括利益	298	1,396
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	301	1,394
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社かつ完全子会社であったシブヤマシナリー株式会社は当社による吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

## (会計方針の変更)

## (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来は、工事契約に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる工事は工事進行基準を、その他の工事は工事完成基準を適用し、また、工事契約以外の製品販売に関しては原則として出荷基準を適用しておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。一定の期間にわたり充足される履行義務は、進捗度を合理的に見積ることができる場合は見積総原価に対する発生原価の割合(インプット法)により収益を認識し、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができない場合で、かつ発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準により収益を認識しております。なお、期間がごく短い受注契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、検収完了時に収益を認識しております。また、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号)第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である国内販売の場合は、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約については、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、利益剰余金の当期首残高は196百万円増加しており、また、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の売上高は890百万円増加し、売上原価は630百万円増加し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ259百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。また、「流動負債」に表示していた「前受金」は、当第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

## (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## (追加情報)

## (新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	パッケージ ングプラ ント事業	メカトロ システム 事業	農業用設備 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,329	4,824	1,955	16,110	—	16,110
セグメント間の内部売上高 又は振替高	212	108	39	360	△360	—
計	9,541	4,933	1,995	16,470	△360	16,110
セグメント利益又は損失(△)	1,062	△270	52	844	△518	325

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△518百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△505百万円および棚卸資産等の調整額△13百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	パッケージ ングプラ ント事業	メカトロ システム 事業	農業用設備 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,360	5,162	4,238	18,762	—	18,762
セグメント間の内部売上高 又は振替高	296	71	14	382	△382	—
計	9,657	5,233	4,253	19,144	△382	18,762
セグメント利益	1,510	287	694	2,492	△564	1,928

(注) 1. セグメント利益の調整額△564百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△539百万円および棚卸資産等の調整額△24百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識等に関する会計基準等の適用)

「(会計方針の変更) (収益認識に関する会計基準等の適用)」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

これにより、従来の方針に比べて、当第1四半期連結累計期間のパッケージングプラント事業の売上高は1,255百万円増加、セグメント利益は343百万円増加し、メカトロシステム事業の売上高は70百万円減少、セグメント利益は10百万円減少し、農業用設備事業の売上高は293百万円減少、セグメント利益は74百万円減少しております。

## 3. その他

## 受注の状況

## ① セグメント別の受注高

(単位：百万円)

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	前年同期比
			%
パッケージングプラント事業	10,055	14,118	+40.4
(酒類用プラント)	( 424 )	( 497 )	( +17.2 )
(食品用プラント)	( 7,116 )	( 9,795 )	( +37.6 )
(薬品・化粧品用プラント)	( 1,868 )	( 3,501 )	( +87.4 )
(その他)	( 645 )	( 323 )	( △49.9 )
メカトロシステム事業	5,863	8,265	+41.0
農業用設備事業	1,847	7,415	+301.4
合 計	17,767	29,800	+67.7

## ② セグメント別の受注残高

(単位：百万円)

セグメントの名称	前第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)	前年同期比
			%
パッケージングプラント事業	50,485	39,532	△21.7
(酒類用プラント)	( 623 )	( 1,137 )	( +82.4 )
(食品用プラント)	( 31,552 )	( 20,414 )	( △35.3 )
(薬品・化粧品用プラント)	( 16,848 )	( 17,384 )	( +3.2 )
(その他)	( 1,461 )	( 595 )	( △59.2 )
メカトロシステム事業	7,010	11,468	+63.6
農業用設備事業	10,793	10,255	△5.0
合 計	68,289	61,256	△10.3

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の受注残高に加減しております。この結果、受注残高の当期首残高は46億24百万円減少しております。